

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 4 年 6 月 6 日現在

機関番号：15401

研究種目：若手研究

研究期間：2018～2021

課題番号：18K13160

研究課題名（和文）共生社会の実現に向けた美術科教育の交流・共同・接続プログラムの開発

研究課題名（英文）Development of exchange, collaboration, and connection programs in art education toward a symbiotic society

研究代表者

池田 史志（Ikeda, Satoshi）

広島大学・人間社会科学研究科（教）・准教授

研究者番号：80610922

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,200,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では、次の3点に取り組んだ。1点目は、校種の異なる複数の特別支援学校及びアートサークルで美術の同一題材を実施し、多様な実態の人たちの美術を通じた学びの特性および指導仮説を構造的に示した。2点目は、インクルーシブな集団で心理的に親密な関係を形成できるアートを用いた交流プログラムを開発・実施し、アートを媒介とした交流が、感性的・感情的・直感的なやりとりを可能にすることを明らかにした。3点目は、広島県、広島県立美術館、広島県アートサポートセンターとの協働で、障害のある人々を対象にした、アートの実施実態調査およびセミナー・ワークショップを企画・開発・実施した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の学術的・社会的意義は次の3点である。1点目は、障害種ではなく身体的特性やコミュニケーション特性を基軸とした実態把握の指標と、実態に応じた美術科教育の指導理論を実証的に提示したこと。2点目は、障害の有無を問わず参加者に学びを喚起する美術科教育の交流及び共同学習プログラムを開発し、その効果を提示したこと。3点目は、特別支援学校卒業後の表現および鑑賞活動の実態とニーズを明らかにし、大学、地方自治体、美術館、NPOの連携により生涯学習に接続するアートプログラムを開発・実施・検証したことである。

研究成果の概要（英文）：This study addressed the following three points. First, the same art classes were implemented in several types of special needs schools and art clubs, and the characteristics of learning through art and the teaching hypotheses for people with diverse conditions due to differences in disability types, etc., were structurally identified. Second, we developed and implemented an art-based exchange program that fosters psychologically intimate relationships in inclusive groups, and revealed that art-based exchanges enable sensory, emotional, and intuitive interactions. Third, in collaboration with Hiroshima Prefecture, the Hiroshima Prefectural Art Museum, and the Hiroshima Prefectural Art Support Center for People with Disabilities, we planned, developed, and conducted a survey of the conditions of art implementation, seminars, and workshops for people with disabilities.

研究分野：美術教育

 キーワード：美術教育 インクルーシブ教育 共生社会 大学・地方自治体・美術館・NPOの連携 交流及び共同学習
 障害 特別支援学校 アート

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

中央教育審議会(2012)『インクルーシブ教育システム構築のための特別支援教育の推進』では、「共生社会の実現を目指し障害のある子どもと障害のない子ども、あるいは、地域社会の人たちが、ふれ合い、共に活動する機会を設けることが大切である」とされ、特別支援学校と一般校、もしくは特別支援学校と地域との交流及び共同学習の推進が提唱された。他方、美術科教育の先行研究では、美術科教育と特別支援教育との複合領域に関する文献は各学校、校種、学級で個別に実施されたケーススタディがほとんどで、学校種間や地域との交流や共同をトピックとした研究はほとんど行われてこなかった。また、特別支援学校卒業後の美術の活動については、学校教育から福祉・社会教育への接続は取り組みの内容のみならず、実態も分かっていない状況がある。また、交流及び共同学習では、「対象児童の個々のニーズの把握の難しさ」(川合ら,2017)も指摘されている。

2. 研究の目的

上述の課題を踏まえ、共生社会の実現に向け、本研究の目的を次のように設定した。

- 1) 特別支援学校の各校種における指導の共通性や差異を明らかにし、多様な実態の子どもに適應できる美術科教育の指導理論を構築すること。
- 2) 障害の有無を問わず、参加者にメリットがある美術科教育の交流及び共同学習プログラムを開発すること。
- 3) 特別支援学校卒業後に創作活動を継続できるための接続プログラムを開発すること。

3. 研究の方法

上述の目的を達成するために、次の研究課題を設定した。

【研究課題1】肢体不自由、知的特別支援学校や特別支援学校卒業後の障害のある人たちによるアートサークルで同一題材による実践研究を行い、学習内容や指導方法の共通点及び差異を見出し、多様な実態の子どもに適應可能な美術の指導理論を仮説として生成すること。

【研究課題2】美術を通じた交流及び共同学習プログラムを開発・実施・検証すること。

【研究課題3】1. 特別支援学校卒業後の美術の実施実態に関する質問紙調査を実施すること。

2. 特別支援学校卒業後にも創作活動を継続できる接続プログラムを開発・実施すること。

4. 研究成果

<平成30年度(2018年度)>

特別支援学校の複数の校種及び特別支援学校の卒業生が参加するアートサークルで美術の同一題材を実施し、多様な実態の人たちの、美術を通じた学びの特性を明らかにすることを目的とした。

研究方法としてアクション・リサーチの手法を用い、広島県内のA特別支援学校で重度・重複障害児を対象に開発された造形活動の題材を、2校の知的特別支援学校(秋田県立栗田支援学校・広島県立福山北特別支援学校)及びアートサークル(佐賀はーとあーと倶楽部)で実践した。本研究では、参加者の実態をコミュニケーションレベルと運動機能レベルの相関で障害のタイプを6類型で捉える「クラス内実態表」を作成し、その中から1型から4型に該当する軽度、中度の対象児・者を主な対象とした。分析方法として主に佐藤(2008)の質的分析法を用い、美術の授業や活動の指導記録やビデオ映像を分析し、今回実施した題材における参加者の学びを理論化した。

分析の結果、参加した対象児・者の学びは、【造形要素への着眼】、【相互影響】、【実験的試行】、【メタファー】、【定型的活動からの発展】、【活動内容の理解と工夫】、【意欲的行動】、【作品への愛着】、【感情のコントロール】、【支援者との共同】、【自立的活動】の11種類の概念に分類できた。さらにそれを、学習指導要領(平成29年告示)で示された資質・能力の3つの柱で整理し、1型から4型に特徴的な学びを示した。

<令和元年度(2019年度)>

インクルーシブな集団において多様な背景を持つ人たちが心理的に親密な関係を形成できるアートを用いた交流プログラムを開発・実施し、有効性を検証した。具体的には、中国から留学した聴覚障害のある学生と日本の大学院生とのより親密な関係構築及び美術の内容・方法の学習が同時に実現する、アート・ワークショップの手法を用いた交流プログラムを開発・実施した。プログラムは、オルポート(1958)の接触理論を理論枠組みとし、A大学大学院教育学研究科に在籍する大学院生3名と、中国から留学し同大学院研究生として在籍している聴覚障害のある学生1名を対象として全16回(90分/1回)のプログラムを実施した。事前の交流段階、事後の省察段階にも十分な時間を取り、活動の主となるワークショップでは、参加者が主体となって色や水墨画をテーマとした活動を考案・実施した。アクション・リサーチによる実践研究の結果、交流プログラムを設計する際の枠組みを6段階で示すことができた。また、アートを媒介とした交流は、感性的・感情的・直感的なやりとりが可能である点や、参加者が持つ文化的背景、生い立ち、価値観などを知るための端緒が活動に内包されている点が有効であった。

<令和2年度(2020年度)>

次の3点に取り組んだ。

(1) 広島県、広島県アートサポートセンターと連携し、広島県に在住・在勤する「障害のある人、サポートする人の表現および美術展覧会の鑑賞に関する実態調査」を実施した。本調査では、これまで実態が明らかにされてこなかった特別支援学校卒業後の障害のある人の表現活動や、美術館・ギャラリーでの美術鑑賞に焦点を当て、障害のある人及び支援者が生活の中でどのくらい美術に関わりを持っているのか、また、どのような点に表現活動や美術鑑賞の魅力や難しさを感じているのかを明らかにした。

(2)(1)の調査結果を踏まえ、広島県、広島県立美術館、広島県アートサポートセンターとの共同開催で、多様な背景を持つ人たちを対象にした、セミナー・ワークショップを実施した。本セミナー・ワークショップでは、ウィズコロナ時代の新たなアート活動の提案として障害のある人が出演したり創作したりする映像作品の制作を行った。広島県立美術館が所蔵する作品を「お題」とし、スマートフォンやタブレットを使った動画を制作し、作品をSNS上で発表した。

(3) 文献研究として、美術教育の国際学会誌で1990年初頭から2020年の約30年間に公表された障害学と美術教育の複合領域を対象とした論文をレビューし、研究動向と今後の課題を示した。『Studies in Art Education』、『International Journal of Art and Design Education』、『International Journal of Education through Art』の3誌に掲載された7名の研究者による12編の論文を対象に、現在行われている教育の何が批判され、どのような理論的方向性が示されているのかを調査した。

<令和3年度(2021年度)>

令和2年度(2020年度)に実施した質問紙調査では、表現活動をしている人が65%であったのに対し、鑑賞活動をしている人が42%と低かった。展覧会に行かない理由として、「興味を持ってない」という回答が最も多かった。それに対し、展覧会に行く理由は、「自分や知り合い、また同じ障害のある人たちの展覧会であること」が相対的に多かった。また、鑑賞活動を難しくしている要因として、美術館やギャラリーまでの移動・アクセスの問題、会場での他者の目への懸念に関する回答が多かった。このことから、障害のある人たち、サポートする人たちが、日常生活環境の中で広くアート活動に参加し、創作物を簡易に発表できる場を作ることによりアートを身近なものとして捉え、興味の高まりと共に鑑賞活動への参加が促進されるのではないかと考えた。あわせて、絵や彫刻以外の創作活動のジャンルを提示することで、これまで見出されなかった創造的な力を持つ人の活躍のきっかけになるとも考えた。

そこで、広島県、広島県立美術館、広島県アートサポートセンターと連携し、障害のある人を対象としたオンライン対話型鑑賞会「みんなで楽しむおしゃべり展覧会～君の見方で絵をみよう～」を実施した。また、関連事業として、広島県立美術館所蔵作品である小林千古「ミルク・メイド(1897)」をお題とし、障害のある人が単独で、また、サポートする人との共同で考案・出演・創作した作品(詩・物語・写真等)をオンライン上で募集し、同じくオンライン上で公表・展示する展覧会「1枚の絵をきっかけに～はじまることは～はじまる写真～」を開催した。さらに、遠隔操作機器を用いて、障害のある人が施設などからパソコンを使って自走式ロボットを動かす、展覧会を鑑賞するワークショップを実施した。

総括

本研究期間全体を通じた研究の成果は、次の3点である。1点目は、参加者の実態を、障害種の違いではなく、コミュニケーションレベルと運動機能レベルの相関で捉え、多様な実態の子どもに適応できる美術科教育の指導理論を生成したこと。2点目は、障害の有無を問わず、双方にメリットがある美術科教育の交流及び共同学習プログラムを開発し、その有効性を示したこと。3点目は、特別支援学校卒業後に創作活動を継続できるための接続プログラムを開発・実施したことである。

<参考文献>

オルポート・G・W著、原谷達夫、野村昭訳(1958)『偏見の心理』培風館
川合紀宗、河口麻希、本渡葵、野崎仁美(2017)「交流及び共同学習の推進に向けた環境整備：インクルーシブ教育システムの構築を目指して」『広島大学大学院教育学研究科附属特別支援教育実践センター研究紀要』15、pp.89-96
佐藤郁哉(2008)『質的データ分析法 原理・方法・実践』新曜社
中央教育審議会(2012)『インクルーシブ教育システム構築のための特別支援教育の推進』
https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/044/houkoku/1321667.htm

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計9件（うち査読付論文 5件/うち国際共著 1件/うちオープンアクセス 7件）

1. 著者名 池田史志、川尻博満、小川ひろみ、川口隆司、保田香織、鰐川華衣、児玉真樹子、竹林地毅	4. 巻 43
2. 論文標題 地方自治体・大学・NPOの連携による障害のある人・サポートする人の表現及び美術展覧会の鑑賞に関する実態調査	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 美術教育学	6. 最初と最後の頁 印刷中
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 横山由季、池田史志、若松昭彦	4. 巻 10
2. 論文標題 A/r/tographyによる知的障害のある児童の探究過程の考察 - 特別支援学級における図画工作科の実践より -	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 初等教育カリキュラム研究	6. 最初と最後の頁 39-48
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.15027/52142	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 Satoshi Ikeda	4. 巻 10(1)
2. 論文標題 Cooperative learning through art-based activities by students with hearing disabilities studying abroad	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Journal of Special Education Research	6. 最初と最後の頁 19-30
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.6033/specialeducation.10.19	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 池田史志	4. 巻 42
2. 論文標題 国際学会誌における障害学と美術教育の複合領域に関する研究動向と課題	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 美術教育学	6. 最初と最後の頁 51-66
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 池田史志、森本謙、マルジエ・モサバルザデ、新井馨、会田憧夢、生井亮司	4. 巻 1
2. 論文標題 多様な価値を包摂するA/r/tographyの試み Narrative by three pictures project in Hiroshimaを通して	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 広島大学大学院人間社会科学研究科紀要「教育学研究」	6. 最初と最後の頁 275-284
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.15027/50209	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 池田史志	4. 巻 第57巻1号
2. 論文標題 特別支援学校における美術の指導困難に関する研究 - 美術の主任教員を対象とした質問紙調査より	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 特殊教育学研究	6. 最初と最後の頁 13-23
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.6033/tokkyou.57.13	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Tetsuka, C., Sato, M., Kasahara, K., Ikeda, S.	4. 巻 2019/2, June
2. 論文標題 Diversity Colour: Understanding Cultural Diversity	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Research in Arts and Education	6. 最初と最後の頁 1311-1326
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 池田 史志	4. 巻 911号
2. 論文標題 美術科教育の射程とは 特別支援学校の全国調査と重い障害の子供達の美術教育実践より	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 教育美術	6. 最初と最後の頁 20 23
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 池田 史志、高橋 智子、大江 登美子、北島 珠水、柴田 洋佑、池永 真義	4. 巻 55(5)
2. 論文標題 インクルーシブ教育システムにおける美術(1) - 特別支援学校および卒業後の多様な実践事例の検討 -	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 特殊教育研究	6. 最初と最後の頁 363 364
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

[学会発表] 計25件(うち招待講演 10件/うち国際学会 5件)

1. 発表者名 Satoshi Ikeda
2. 発表標題 Toward social inclusion: What can art education contribute?
3. 学会等名 International Society of Education Through Art, 1st Asian Webinar: Inclusive art education in Asia (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 荒井裕樹、池田史志、手塚千尋
2. 発表標題 美術教育は障害学とどのように向き合うか - 障害者運動とアート
3. 学会等名 第44回美術科教育学会東京大会インクルーシブ教育部会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 池田史志
2. 発表標題 特別支援学校等卒業後の障害のある人・サポートする人のアート活動に関する実態調査
3. 学会等名 第44回美術科教育学会東京大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 池田史志
2. 発表標題 重度・重複障害児からアートとスポーツの根源を考える - 遊戯論を視座として
3. 学会等名 芸術学関連学会連合第15回公開シンポジウム『芸術とスポーツ』（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Satoshi Ikeda
2. 発表標題 An arts-based exchange program for international students with hearing disabilities
3. 学会等名 InSEA Europe 2021, Baeza (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 池田史志
2. 発表標題 一人一人の表現を大切にする授業実践へ 児童生徒の意欲を高め能力を発揮できる造形活動の授業づくり
3. 学会等名 徳島県立鴨島支援学校研修会（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 横山由季、池田史志、若松昭彦
2. 発表標題 A/r/tographyによる知的障害のある児童の探究過程の考察
3. 学会等名 日本特殊教育学会第59回大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 池田史志、川尻博満、小川ひろみ、平澤美佐、福田浩子、森万由子、保田香織、鱈川華衣、竹林地毅、児玉真樹子
2. 発表標題 アートと共生に関する調査および施策一体型プロジェクト - 自治体・大学・美術館・NPOの連携による包括的実践研究開発 -
3. 学会等名 日本特殊教育学会第59回大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 池田史志
2. 発表標題 写真・動画づくりセミナー＆ワークショップ
3. 学会等名 令和2年度 広島県障害者文化芸術活動支援事業
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 池田史志
2. 発表標題 美術表現映像ライブラリーVol.5 理論編、具体編、実践編
3. 学会等名 令和2年度 広島県障害者文化芸術活動支援事業（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 竹林地毅、池田史志、宮本聡、江口和文、上野真弓
2. 発表標題 障害のある人の芸術活動 - 地域とつながる芸術活動と特別支援教育の課題 -
3. 学会等名 日本特殊教育学会第58回大会自主シンポジウム
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 池田史志
2. 発表標題 特別支援学校における教科指導上の困難に関する研究 - 美術の主任教員を対象とした質問紙調査より -
3. 学会等名 日本特殊教育学会 第58回大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 竹林地毅、池田史志、長津結一郎、北村成美、北島珠水
2. 発表標題 障害のある人の芸術活動 - 出会い・つながり・新しい価値の創造の現状と特別支援教育の課題
3. 学会等名 日本特殊教育学会第57回大会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 池田史志
2. 発表標題 障害者による文化芸術活動の推進に関する基本計画を読む
3. 学会等名 広島県あいサポートアート展特別イベントシンポジウム（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 池田史志
2. 発表標題 聴覚障害のある留学生とのアートを通じた交流プログラムの開発
3. 学会等名 日本特殊教育学会第57回大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 池田 史志
2. 発表標題 障害のある方・障害のある方のアートをサポートされている方のための2019ワークショップ Discovery
3. 学会等名 令和元年度広島県障害者芸術文化活動支援事業（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Satoshi Ikeda
2. 発表標題 Eliminate boundaries: Inquiry regarding tolerant inclusion
3. 学会等名 Mapping A/r/tography InSEA 2019 Exhibition (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 池田 史志、大江 登美子、北島 珠水、柴田 洋佑、高橋 智子
2. 発表標題 共生社会の実現を目指す複数校種等での同一題材実施プロジェクト
3. 学会等名 第41回美術科教育学会北海道大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Satoshi Ikeda
2. 発表標題 Art for Disabled Children
3. 学会等名 InSEA Regional Conference 2018 in Finland (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Chihiro Tetsuka, Maho Sato, Koichi Kasahara, Satoshi Ikeda, Kazuji Mogi
2. 発表標題 The Color Arrangement Workshop: Understanding Cultural Diversity
3. 学会等名 InSEA Regional Conference 2018 in Finland (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 池田 史志、大江 登美子、北島 珠水、柴田 洋佑、高橋 智子
2. 発表標題 インクルーシブ教育システムにおける美術(2) - 複数校種等での同一題材実施による学習/指導の連続性の検討 -
3. 学会等名 日本特殊教育学会第56回大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 池田 史志
2. 発表標題 障害のある人の文化芸術活動とその支援の国内・外の現状と課題
3. 学会等名 アートは生活と社会を変える！シンポジウムとワークショップ(招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 池田 史志
2. 発表標題 境界から滅境へ：共存に関する一考察
3. 学会等名 Mapping A/r/tography の実践研究
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 池田 史志
2. 発表標題 障害のある人・障害のある人のアートをサポートする人のためのワークショップ
3. 学会等名 広島県平成30年度障害者芸術文化活動支援事業（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 池田 史志
2. 発表標題 あいサポートアート展ギャラリートーク
3. 学会等名 平成30年度広島県あいサポートアート展（招待講演）
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計3件

1. 著者名 米田宏樹、川合紀宗編著、一木薫、池田史志、氏間和仁、竹田一則他	4. 発行年 2022年
2. 出版社 協同出版	5. 総ページ数 243
3. 書名 新・教育課程演習第6巻 特別支援教育	

1. 著者名 茂木一司、大内進、多胡宏、広瀬浩二郎編著、伊藤亜沙、池田史志、笠原広一他	4. 発行年 2021年
2. 出版社 ジアース教育新社	5. 総ページ数 375
3. 書名 視覚障害のためのインクルーシブアート学習：基礎理論と教材開発	

1. 著者名 Nicole Y. S. Lee (Editor and curator) & Rita L. Irwin (Principal Investigator); Jun Hu, Alexandra Lasczik, Koichi Kasahara, Anita Sinner, Kazuji Mogi, Ricardo Marin-Viadel, Satoshi Ikeda et. al.	4. 発行年 2020年
2. 出版社 InSEA Publications	5. 総ページ数 140
3. 書名 Mapping A/r/tography: Exhibition Catalogue	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計1件

国際研究集会 ABR (Arts-based research) , A/r/tographyとは何か - 多様な価値を包摂できる学校教育実践への接続を視野に -	開催年 2019年 ~ 2019年
--	----------------------

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------